

2002/3

"港・まち・人" つなぐ おなはまの夢・・・

小名派まちづくり市民会議

港町おなはまのグランドデザイン(2002.3)《ダイジェスト版》

- 1, はじめに 《市民参加のまちづくりとは…》
- 2. グランドデザイン
 - (1)基本的な方向性 《まちづくりの5つの目的》
 - (2) まちづくりの基本コンセプト
 - (3) ゾーニングマップ
 - (4)整備ゾーンと個別テーマ
 - ①港湾背後地
 - ②まちなか商店街
 - ③緑の大通り
 - 4)小名川
 - ⑤竹町·横町地区繁華街
 - ⑥リスポ横町公園周辺地区
 - ⑦古湊地区
 - ⑧小名浜港エリア (1・2号埠頭地区)
 - ⑨アクアマリンパーク
 - ⑩3号埠頭地区
 - ⑪漁港区~三崎公園地区
 - ⁽¹²⁾公民館·市民会館地区
 - ③まちなか居住地(全域)

小名浜まちづくり市民会議

1. はじめに 《市民参加のまちづくりとは…》

小名浜まちづくり市民会議は、「自分の住む町は、自分たちの知恵を出し合って考えたい」 というテーマのもとに、各種団体を統括し、企業や市民などがまちづくりに対するベクト ルを集結し、市民参加型のまちづくり組織として結成されました。

市民会議のまちづくり事業として、まちの基本となるまちづくりグランドデザインづく りを進める一方で、すぐに取り組むべき事業として、プロジェクトを導入しての様々なソ フト事業を展開してきました。

グランドデザインづくりの進行については、一般の市民から見ると専門領域のブラックボックスとなりがちな計画案づくりや、企画・設計等の作業を、いかにガラス張りにし、市民の参加が可能なものにするかに重点を起いたことから、「ワークショップ方式」を導入して行ってきました。

この報告書は、たくさんの市民が参加し、「まちを歩き、見て、聞いて、感じて、語らって、知恵を出し合うなど…」様々な体験をすることで、実り豊かな成果を生み出した、平成13年度1年間の「成果」と「過程」の記録です。

この報告書を通して、小名浜まちづくり市民会議の活動と、その趣旨をご理解いただき、より多くの人々の参加と、関係各位のご指導、ご協力をお願い申し上げると同時に、行政と市民とのパートナーシップによる市民参加型まちづくりの事例として、取組みを続けて生きたいと考えております。

まちづくりへの皆様のご参加をお待ちしております。

平成14年3月

小名浜まちづくり市民会議 会長 里見 潤

2. グランドデザイン

(1) 基本的な方向性 《まちづくりの5つの目的》

- (1) まちの機能性を重視した港湾後背地の有効活用
- ② 現在の集客装置であるアクアマリンパークを活かしつつ、さらなる回遊性 U P と市内各所への誘導
- ③ まちのイメージづくりと、そのシンボルづくり
- ④ まちの歴史資産を活かした集客装置・まちづくり
- ⑤ 21世紀型港町としてのあり方を具現化した集客装置・まちづくり

(2) まちづくりの基本コンセプト

【基本コンセプト】

懐かしくて新しい、亜細亜と出会う港町

【まちづくり整備テーマ】

ほっとポート・小名浜

雑多な面白さとエネルギーにあふれ、人情はあたたかく、懐かしい雰囲気に心癒される。 熱くて(HOT=エキサイティング)、あったかい(ほっとする=癒し)、味わい豊かな港町 文化を堪能できる町、それが小名浜。

【4つのキーワード】

港町文化 ・・・・本物の港町文化に出会えるまち

情報の潮目・・・人・もの・情報があつまり交流する、"潮目"のまち

味わい人情・・・人も自然も温かくて親しめるまち。癒しのまち。

二面性 ・・・大人も若者も楽しめる、昼も夜も楽しめる、懐かしいけど新しい、 エネルギッシュだけど癒される、そんな2面性のあるまち (3) ゾーニングマップ

(4) 整備ゾーンと個別テーマ

① 港湾背後地

港町発(初)海と人の情報の発信&交流拠点「小名浜シティサービスセンター(仮)」 の建設

●行政機能の集約

現在のいわき市支所をこのゾーンに移転させ、国、県、市の行政施設を1カ所に集約した合庁とする。 新たなまちの核となる住民サービス機能の充実、また市民のためのライフサポートセンターとして、相 談窓口等も開設し、市民の生活情報・生活サービスを総合的に支援を図る。この整備に当たっては、官 民の複合施設の整備を支援することを始め、国の「PFI事業」を活用していきたい。

●人と情報の集まるコミュニティ機能

公民館や1,500 人規模の大ホール、国際交流機能を持った会館など、人が集まる施設を集約する。太平洋に面し、"海から世界に開かれた都市"として、各国との交流拠点となるような窓口としてソフトの充実を図り、情報発信・受信機能を強化していきたい。

●新たな嗜好の商業集積

観光商業と、地域市民ニーズ双方に応えるため、新規参入を含む時間消費型商業機能を配置する。また、観光客にも地域市民にも愛されるまちの名物づくりとその販売拠点づくり等に力を入れたい。

●総合的な交通ターミナル機能

鉄道の旅客化による駅の設置し、バスターミナルなど公共交通機関を集約させる他、まちを回遊する ためのタクシーや自転車などの手軽な交通手段としてのターミナル機能も併せ持ったいわきの交通拠 点として考えていきたい。

② まちなか商店街

生活と密着した"あったかくて懐かしい、普段着の商店街"

●最寄り商店街としての集約

本通り現銀座商店街に、機能的な集約を行い、生鮮品等を中心に地域生活者の利便性を重視した"あったかくて懐かしい、普段着の商店街"を形成。そのため、業種充足のための店舗誘致等も積極的に推進したい。他方、生鮮・いわき産品市場等のモデルケースの社会実験場としても機能させたい。

更に、女性や子供、高齢者にやさしいまちづくりを推進するため、医療、文教との近接によるコミュニティ性能を強化したり、スタンプなどの地域通貨によるコミュニティビジネスに必要なソフトづくりも仕掛けていく。

●新たな歩行空間の提案

利便性の高い駐車場の整備と、買い廻りのための歩行空間を連動。"そぞろ歩きの楽しさ"を実現させたい。

●商住一体型居住地の整備

低層かつ、商住一体型の店舗を開発。小さいけれど、機能の充実した、利便性の高い商店街建築群を 形成し、懐かしくて、親しみやすい"和みの空間"づくりを行っていきたい。

③ 緑の大通り

小名浜のシンボルとなる表通り"(仮称)緑のシャンゼリゼ"

●街のシンボルとしてふさわしい大通り整備

市街地から海が一望できる優れた景観を活かし、歩いて楽しい緑あふれる歩道空間を形成する。小名 浜イメージづくりのためのシンボリックな通りとして、歴史性豊かで世界に開かれた、ハイカラで洒落 た街なみイメージ。

また、景観にも配慮し、高木で緑が多く、ポケットパークなども随所に整備。導入部には"凱旋門"など小名浜の入り口としてのランドマーク的な構築物も配置したい。

●まちなかとは性格のちがう商業集積

新たな嗜好のレストラン街など、旧市街地とは違った商業集積の誘導。雰囲気のあるレストラン、オープンカフェなど流行りの業態店も。世界を目指す若く才能ある商業者たちのチャレンジの場でもある。

●道路沿線にも影響ある規制で、シンボル性を強化

シンボルとしてふさわしい通りとして機能維持していくため、区画整理等での用途規制や、まちづくり協定締結等による景観への配慮を強化。

●横町地区との回遊性・連携強化

大通りから、まちの中心部への連携を持たせるため、サイン、案内板の整備などの仕掛けづくり。

④ 小名川

親水性を重視したまちなか回遊路としての水路整備

●外環道路の整備

都市計画道路として、市街地の外環道を整備。港からまちを周遊できる外環道へ。

●游べる歩道づくり

水辺や生き物と親しめる親水階段や遊歩道、ポケットパーク、植栽整備によって、港町らしい雰囲気づくりを図る。沿道拡幅やはね出し橋等も検討し潤いと親しみのある歩道づくりへ。

●古湊地区への導線整備

古湊へつながる導線として機能を充実。古湊や魚市場まで、小舟で周遊できる港町を感じるロマンティックな航路を復元するなど、観光資源としても活用を検討。

●親水性のUPと水質浄化の促進

各戸の浄化槽整備により、水が美しい・水と親しめるまちづくりへ。水量アップのための方策検討や 生き物に優しい水辺環境づくり、水の浄化などへの意識を高める市民運動を展開していきたい。

⑤ 竹町・横町地区繁華街

港とつながる味のまちなみ

●港町小名浜らしい、活気ある賑わい空間づくり

港町の味を堪能でき、港町の食文化としてのシンボル地区として"食の街道づくり"。この地区は、街と港を結ぶ導線機能を強化する目的も併せ持ちたい。

そのため、お店の誘致や名物メニューの開発や、メヒカリ料理などのメニュー企画の統一など、ソフト的充実を支援していきたい。パティオタイプ等のモデルケースによる社会実験も検討。

●裏路地文化の拠点づくり

現行の路地を活用し、縦軸と横軸を活かした、小名浜らしい雑然さを残した街並み。探索するのが楽しくなるような、ワクワク・ドキドキを体験できる空間。古い木造の町屋等、古くて味わいのある建物を活かした食空間。若者向けのサブカルチャーショップも出店するなど文化性豊かなエリアに。

⑥ リスポ周辺・横町公園地区

市街地の生活を支える癒しのケア&エデュケーション中心核

●生活者や高齢者に配慮した機能の充実

予防医学の視点から、タラソテラピー機能やデイケア・デイサービスセンター、高齢者向けマンションなどの癒し&ケア施設を集約。増加が予想される市内の高齢者への配慮だけでなく、将来、市外から温暖で環境の良い「小名浜」を目指してやってくる高齢者への受け入れ拠点としての機能も目指して整備。また、そのために行政サービスのあり方の検討やソフト的補完体制づくりが求められる。

●教育施設の充実

市街地に学校など教育機能を配置。地域での教育のあり方、学校機能の再検討をしていく。民俗資料館や博物館など、地域教育拠点の整備も図りたい。

⑦ 古湊地区

歴史を感じる散策路

●富ヶ浦公園の整備

歴史あるまちなか公園として、富ヶ浦公園を再整備。きれいな夕陽が楽しめる遊歩道や、貴重な史跡 としての代官所復元など、市民や来街者が憩い楽しめる公園整備を図る。

●史跡や公園を巡る散策路

地域資源として、港町の古い歴史や史跡にふれて散策できるような観光機能を強化。訪れた人々に、 小名浜の歴史を紹介できる"小名浜・港町歴史館"などの仕掛けづくり。

●小名川とのアクセス

小名川の都市計画道路とアクセスすることで、利便性・話題性もUP。

⑧ 小名浜港エリア (1号~2号埠頭地区)

人と海とが出会い楽しむ、アミューズメント性豊かな賑わいづくり

●滞在機能を有した港の賑わいあふれる食の会堂(1号埠頭地区)

滞在施設とともに、屋台村など小名浜らしい味の会堂を配置する。港らしさを味わえるような滞在施設づくりに配慮する。

●水とふれあうアミューズメント施設(2号埠頭地区)

海の玄関口として、情緒あふれる港の雰囲気作りに配慮するとともに、海で遊び学べる体験型施設や 参加イベントなどを充実させる。観光漁業の模索・実験エリアとし、漁業家との意見交換などを交え、 小名浜漁業のあり方も同時に再検討していきたい。

9 アクアマリンパーク

海と親しむ公園として市民憩いの広場機能を充実

●全天候型イベント広場の設置

パーク機能性を向上させるため、全天候型のイベント広場を設置する。集客UPのためのイベント誘致や利用促進を図る。

●背後地とのアクセス性を充実

まちの最も強力な集客施設としての機能をより一層活かすため、背後地と連動したパークづくりを図り、観光客の市内回遊を促進させるため、アクセス道を整備する。

●まちなか案内所整備

小名浜のインフォメーション施設としての機能を強化するため、まちなか案内所を設置。各種観光案内の資料などが手に入るだけでなく、案内人が常駐し各所へ案内、観光アドバイスもできるなどソフトの充実も図りたい。

●光のプロムナードの設置

夜遅くまで遊び楽しめるエリアとして、夜も人が集まるような仕掛けづくりを検討する。

⑩ 3号埠頭地区

国際港としての小名浜港・防災機能の充実

●緊急時の対応が可能な防災埠頭

ヘリポートや備蓄基地など、国際港として、必要な防災機能の充実を図る。行政や企業と連携し、P FIなど新たな地域防災システムを研究していきたい。

① 魚市場~三崎公園地区

港と連携した21世紀型漁業

●漁業と街と人を結ぶ景観地区

港町の発祥地であることを活かし、現漁業地区と市民、来街者双方を考えた景観整備と利活用の検討を行う。

そのため、漁業家とまちとの話し合う機会や双方の勉強会等を設け、漁業のあり方とまちづくりを市

民全体で考えるような運動を仕掛けていく。

① 公民館・市民会館地区

"日本で一番住みやすい街づくり"に向けた 拠点機能集約に際しての原資的土地利用(タネ地)

●拠点機能集約に対する代替地

各種機能に対する代替地として、居住機能としての整備を行う。「日本で一番住みやすい街」として PRできるような整備内容を検討し、居住度アップのための各種制度を利用した住宅整備や、医療機関 とのタイアップを図る。また合わせて、公共交通網や交通機関等の整備も同時行うことで機能の充実を 図りたい。

③ まちなかの居住地(全域)

21世紀型まちなか居住スタイルの新たな提案

●今住んでいる人たちが、最も快適な空間づくりへ

何よりも今住んでいる人たちの快適性を重視した環境づくりを目指した都市機能の充実や、居住空間の整備を行い、"ずっと住みたい""また小名浜に帰りたい"まちづくりへ。

●高齢者対策の強化

高齢者向けに医療とのタイアップを図った集合住宅など、高齢者の快適なまちなか居住を再考する。

●商住一体型住居の促進

まちに必要な機能充実のため、商住一体型住居の促進を図る。



"港・まち・人" つなぐ おなはまの夢・・・

小名浜まちづくり市民会議

〒971-8164 いわき市小名浜花畑町 2-1 TEL;53-5175/FAX;54-6820 http://ww51.et.tiki.ne.jp/~onahama/ e-mail;onahama@mx51.et.tiki.ne.jp